

特集2 地域のためのアートマネジメント講座(前期)

SPECIAL 2 Community-based Arts Management Seminar (First term)

■ 文化庁「文化芸術による創造のまち」支援事業

都市研究プラザ所長の佐々木雅幸（創造都市研究科教授）が委員長を務める地域アートマネージャー育成事業実行委員会の主催により、2009年5月から「地域のためのアートマネジメント講座（前期）」が開講した。

「地域における文化芸術の創造、発信及び交流を通じた文化芸術活動の活性化を図ることにより、我が国の文化水準の向上を図ること」を目的とする、文化庁の平成21年度「文化芸術による創造のまち」支援事業に採択されたのである。

実行委員会は地方自治体である大阪市と大阪市立大学都市研究プラザを中心に、平田オリザ（都市研究プラザ特別研究員／大阪大学コミュニケーションデザインセンター教授）、大阪芸術大学の非常勤講師でサントリーミュージアム天保山学芸員の植木啓子氏などによって組織され、将来の大阪におけるアートマネジメント研究教育の連携を視野に入れた体制となっている。

■ 必要とされる「地域のためのアートマネジメント」

半年間の講座は全10回からなり、各分野でアート振興や地域活性化、社会問題の解決などで第一線の現場に立つ方々を講師に招き、議論を重ねていくなから、「地域のためのアートマネジメント」とは何か、その本質を見極めようとするものである。

本講座は通常のアートマネジメント講座とは異なり、「地域のための」という点に重点が置かれているところに



第1回(5月23日)の講義を行う佐々木所長と、ゲストファシリテーターの山口洋典氏(應典院主幹/同志社大学大学院総合政策科学研究科准教授)

特徴がある。そもそも文化庁の掲げる「文化芸術による創造のまち」を実現するためには、芸術文化を扱うアートマネージャーの人材育成が何より先決であるが、それだけでは十分でない。アートマネジメントに関する従来の知識やノウハウに加え、地域に固有の特性や問題、コミュニティや社会的マイノリティに関する知識と洞察力といったものが強く求められる。しかし大阪など関西圏では一般的なアートマネジメント教育の機会すら非常に限られており、さらに「地域のため」に焦点をあてた講座はほとんどないといってよい状況にある。

準備期間の短さから受講募集の広報は非常に限られた手段と期間とならざるを得なかったが、申込数は我々の予想を遙かに超え、当初の予定受入数を増員し、最終的には相当数の申込者を断らなければならなかった。このような機会が如何に求められ、そして不足しているかを如実に示すものであり、我々の取り組みの重要性をあらためて再認識することとなった。その関心の高さは新聞にも取り上げられている（5月27日、大阪日日新聞）。

■ アートとは？ 地域とは？

本講座は6月末時点で4回の講義を終えた。毎回約20名の受講者が出席し、関係者を含めると30名を超えて会場は常に満員である。

第1回はイントロダクションを含めて佐々木雅幸が講師を務め、世界的な創造都市の動向の下にアートマネジメントを位置づけ、各都市の実践を紹介した。

第2回の島田誠氏は神戸にギャラリーを構えるとともに



「地域のためのアートマネジメント講座(前期)」の受講生募集チラシ

にアート・サポート・センター神戸の代表を務める経験から、ファンドレイジングによるアート振興の実践や、市民がアートを支える社会の意義を語った。

第3回の志賀玲子氏（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任教授）は難病に冒された知人の生活支援をあえてアートプロジェクトと位置づけ、日々直面していく困難や喜びのなかから、自身がこれまで携わってきたアートマネジメントやアートに対する考えを根底から揺さぶられた経験を語った。

第4回は行政のアートマネジメントへの取り組みとして、菅谷富夫氏（大阪市立近代美術館建設準備室主任学芸員）を招き、此花区が取り組むアートによる地域活性化の事例を中心に、行政が抱える問題などが議論された。

今後も別府現代芸術フェスティバル2009「混浴温泉世界」で総合プロデューサーを務めた山出淳也氏や、コミュニティアートを標榜する下山浩一氏（NPO法人コミュニティアート・ふなばし理事長）、その他インドネシアやタイからも講師を招くなど、多彩なラインナップを予定している。

■ 評価とこれから

毎回受講者に提出を求めているアンケートには、「もっと講義時間を長くして欲しい」「もっと質疑応答や議論の時間をとってほしい」といった積極的な意見が多くみられ、受講者の反応の良さや意識の高さが伺える。受講者はアートマネジメント関連の職に就くことを目指す学生を中心に、現に各ジャンルのアートやまちづくりに従事する社会人、文化行政に携わる公務員などによ



第1回（5月23日）の様子

て構成されている。

講座の最終的な評価は全講座の終了を待たなければならないが、今後彼らが地域に根ざしたアートマネジメントの現場に立ち、日々の実践に取り組むなかでさらに認識を深め、そこから本当の成果が現れることを期待している。なお、10月からはさらに新たな陣容を擁して後期講座を開催する予定である。

<< 高岡伸一（都市研究プラザ特任講師）

This seminar consists of ten sessions aimed at ordinary citizens. Its goal is not a typical study of arts management, but rather to study and discuss the forms of arts in actual practice in the context of their relation to localities and communities. Running from May through September, it explores the essence 'Community-based Arts Management' from multiple perspectives at each session by inviting a group of lecturers who are working in the forefront of the field and accumulating discussions through the explanations of their various practical experience. Under the topic of the trends in the world's creative cities, multi-pronged themes have been put forth including citizen-participatory fundraising to support the arts, the arts in communities and among social minorities, attempts at art festivals in declining regional cities, and various practical experiences in arts management in the Asian realm. There are few opportunities to study arts management in Osaka or the Kansai Region, and there are almost none that focus on localities and communities as this seminar does. In spite of the fact that advertising for this seminar was very limited, the response greatly exceeded our expectations. The participants who have gathered are mainly students who are aiming to work in the field of arts management, or professionals already working in various fields connected to arts management, community building, or cultural administration. Their zeal and awareness is quite high, and their enthusiasm is shown in their desire to extend the lecture time. We expect even more active discussion to develop in the future.